



発行所▶大阪府グラフィックサービス協同組合  
コスモス会  
編集責任▶コスモス会事務局

## 『20周年記念誌』の進行状況

記念誌の記事部分は年度ごとの担当者に校正していただき、ほぼ完成しました。

記事に添った写真は岡さん、兵頭さん、森沢さんのご協力のもと編集委員が未整理写真の入ったダンボール箱を探したりで、ほぼ集まりそうです。

新聞記事等については、溝口さんにお世話になりました。

表紙デザイン・タイトルは、どなたからも応募がなく、表紙は木原さんをお願いしております。タイトルは「信頼の20年(仮称)」で進行中です。

祝辞の依頼、各支部長さん宛の広告依頼などは、西本さんに宛先を書いていただき封

書で発送しました。記念誌は皆さまのご協力と編集委員たちの根気によって完成します。

9月発行を目的に広告頁の版下なども作成していかなければなりません。皆さまの早めのお申し込みをお願いいたします。

〔記念誌広告費〕パーティ参加費用については、事務局よりの記事をご参照ください。

厳しい情勢が続いておりますが、皆さまの力を頂いて今年度の記念事業を成功させたいと思っております。ご協力よろしくお願ひ申しあげます。

会長 山田 益子

### ご参加をお願いします

OGS恒例のビアパーティが開催されます。募集定員にまだ充分な余裕があります。

各社で申し込まれた方は別として、コスモス会会員として参加しませんか。

岩下新理事長が皆さんにお会いしたいそうです。(OGS会員でなくてもOKです)

参加申込は同封の用紙にFAXにてお願いいたします。

日時 8月10日(火) 19時~20時40分  
受付: 18時30分よりパティオ入口にて

会場 ANAクラウンプラザホテル大阪  
(5F ル・パティオ)  
大阪市北区堂島浜1-3-1  
TEL 06-6347-1112

参加費用 1名 3,500円

振込先 三井住友銀行 上町支店  
普通 0126531

事務局よりお願い  
20周年記念事業  
名刺広告ご協力をお願い  
6月末のコスモス通信に「名刺広告ご協力のおねがい」を同封させていただきましたが、ご理解を得られていない旨のお電話を頂戴しております。もう一度ご説明をさせていただきますのでお間違いの無いようお願い致します。

会員紹介の広告にはコスモス会員以外の方のお名前は掲載できません。  
会社又は社長様のお名前でご掲載ご希望の方は、別の広告頁に一万五千円で承っております。こちらの方もご協力お願い致します。

#### ◆お詫びと訂正◆

高松大会の報告の中でひと息ついて懇親会となり高知県支部の「よさこい踊り」や徳島県支部の「阿波踊り」の共演で高松の夜を楽しみました。

という原稿をいただいたにもかかわらず、ゴシックの部分を欠落及びミス入力してしまいました。ここに訂正させていただきます。

通信担当者

### コスモス会H.P.ブログより

拾い読み

#### 会計ソフト「どんぶり君」

ある会報誌を読んでいたら、編集後記にOGS所属のFさんの名前があった。彼の書いた記事があまりにも面白かったので抜粋してご紹介。

会計ソフト「どんぶり君」は数字が苦手な会計ソフトである。

売上は「ぼずぼず」景況は「まあまあ」支払は「たくさん」見通しは「なんとかかなる」と入力する。

経営理念や計画を入力すると「スーパーどんぶり君」になれ、ちょっと優越感を持てる。どんぶり君たちは目標が未達でも気にしない。社員にやさしく、お人よしで楽家。

金融機関も困っている。中小企業に貸し出すべき資金はたくさんあるのに、どんぶり君ソフトを使っている人に貸すお金はないのだ。

もちろん笑い話である。

Fさんは最後にこう結んでいる。

経営するということは、管理会計を実践すること。

ほんまもんの経営者になるためには、ヒト、モノ、カネをバランス良く学ぶことが大切だ。

理念と計画を持ったものの、その先に進めないスーパーどんぶり君たちが大勢いるような気がする。

### ◆第7回役員会報告◆

日時: 7月16日(金) 6時半~  
場所: 社会福祉指導センター  
4Fゼミナール室  
出席者: 山田・長谷川・岡・田中・前田・山本・森沢・深田・坂本

◆会長あいさつ  
及びOGS理事会報告

◆各支部報告  
サロンド部会より

・全国大会会計報告  
・残金600円会計へ入金

・11月頃、ヨガを予定しています。

◆H・P委員会より  
・ブログが活発に活動

◆その他として

・20周年記念誌の進捗状況と  
・次期会長の選出方法について

### 一筆箋

6月下旬、青山高原は、雨上がりのホテル日和だ。その自然群生に出合った。闇夜に無数の光。フアンタステック。小さく叫んだ。私は天神祭の翌日生まれ。まさに酷暑。出産直前の母は「ホテルに清涼を感じ、いやされたもの」と、よく話していた。

小学生のころ、暗がりを自転車で行くと、服に数匹のホテルが付いた。そのまま持ち帰り、灯を消した数帳の中に落ち、浮かぶ光を楽しんだものだった。

数日前、新聞とテレビが「関東のホテルは4秒間隔、関西のホテルは2秒間隔で光る」と報じていた。幼いころの感傷も吹き飛ばす科学のメスだった。が一方で、60歳も過ぎた私は「関東のホテルのように、光をゆつくり放つようでありたい」……そんなヒントを得たような気がした。岡 加代子

今回は川西佳子さんです。